

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0672600350		
法人名	有限会社 葉山		
事業所名	グループホーム はやま荘		
所在地	東置賜郡高島町大字高島 530-1		
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 21 日	開設年月日	平成18年 3 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do">http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3-31		
訪問調査日	平成 22年 11月 22日	評価結果決定日	平成 22年 12月 6日

# (ユニット名 1F)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅に近い環境で混乱なく過ごし『穏やかに』『ゆっくり』をモットーにできる限り自立した生活を支援しています。自室に閉じこもることなく、一人ひとりが笑顔で過ごせ、利用者同士の関わりを多くもてるような空間作りを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、公共施設が目の前にあるという立地条件に恵まれ、通りを歩く人や街の音が目と耳で感じられ、これまでの暮らしを断ち切ることなく、家族等や地域の方が気軽に立ち寄れるところです。おみ漬けや干し柿作り等の得意分野に精を出し、趣味の手芸やカラオケで童謡や懐メロを唄ったり、一人ひとりのペースで思い思いに過ごし、ゆったりとした時間が流れている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目 No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議等のさい理念を唱和し共有することにより、管理者、職員が一体となり理念の実践に取り組んでいる。	「心かよう信頼と安心の介護」という理念を日々の目標として確認し合い、意識しながら利用者の大切な暮らしを守るサービスを実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事の祭り見学や敬老会等へ参加したり、はやま荘の夏祭りなどにも近隣の方々に参加されるなど地域とのつながりを大切にしている。また、日常的に近隣の方々と朝夕の挨拶などをとし、その時々で交流をしている。	町の民生委員、児童委員の視察研修場所として事業所を活用してもらっている。地区行事への参加や、事業所主催の夏祭りには地区の老人クラブの方が来所し、同年代の人とも交流が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や視察研修に来荘されたさいなど、随時、相談の受付をしていることや認知症の理解に向けて説明させていただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目安に行い、地域の方々、家族の方に主席いただいている。利用者やホームの現状報告、行事予定の連絡、外部評価への取組み状況報告し、要望や意見を伺いサービス向上に活かしている。	家族全員に運営推進会議の案内を出し、毎回数名の参加が見られる。現状報告やテーマに沿って意見交換が行われ、今回は「非常時の協力体制について」話し合われ、地域の方に事業所内を見学して良く知ってもらい、災害時の協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	国保介護課、地域包括センターの方々に相談、指導を頂くなど常に連絡を密に行い、事業所の取組みを理解していただいている。	目の前に役場があり、相談・情報交換・連絡事項等がある時は頻繁に足を運び、担当職員とは顔馴染みの関係になり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	重要事項説明書にも明記しており、家族の方にも身体拘束をしないことを十分説明し、理解していただいている。また、安全に過ごしていただけるよう工夫や見守り、注意力の徹底で身体拘束しない取組みに全職員で努めている。	玄関の出入り時にはセンサーでチャイムが鳴り、安全の確認をしている。職員全員で声かけや見守りを工夫し、連携を図っている。気分転換等で心配や不安を取り除き、安心して自由な暮らしが出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高島町高齢者虐待防止連絡会に毎回主席し学び、会議のさい報告、絶対あってはならないことを全職員学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を得ている。また、必要な方には地域包括支援センターと連携を取り合い、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明を十分な時間を取り行い、不安や、疑問を尋ね理解や納得をして頂いている。改定の時も十分な説明を行ない理解を頂き、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・希望受け窓口を設け、管理者を担当としている。また、運営推進会議の席上いろいろな意見を頂き運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、家族等から意見・要望を聞く機会を設けている。利用者との日々の関わりの中で表情やちょっとした変化を見逃さず、職員は情報を共有し、出された意見の中で出来ることはすぐ実行してサービスに反映している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の代表者と全職員のミーティングを行っており、自由に意見や提案を出し合い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりの個々の努力や実績、勤務状況を把握できるよう職場に顔を出し自ら確認したり、声かけにより職員のやる気を引き出している。また職員の意見を配慮し環境整備や条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成のための年間研修計画を立て、職員の段階に応じた職場内外の研修を受けており、全職員へ伝達講習を行っている。	毎月のミーティングではテーマを決め内部研修を実施している。外部研修にも交替で参加し、報告書により伝達講習を行ない、職員のレベルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム置賜ブロック会、県GH協会、日本GH協会に加入しネットワーク作りに努めている。ブロック会での情報交換や交流、勉強会、交換実習等に参加してサービスの質向上に活かしている。	グループホーム連絡協議会主催による交流会で、情報交換や学習会等に参加して自分の良いところ、足りないところが発見できて、サービスの質の向上に活かしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活の様子をうかがったり、家族の方や介護、看護サマリーなどから情報を得て不安なく安心して過ごせるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの暮らしの状況を説明し、家族が望まれていること、不安に思っていること全て聞くことで安心していただけるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族などが相談に来荘されたとき、または事前の面接などで他のサービスが適切と思われるときは、入所判定会議で充分話し合いし、家族にも理解をいただき対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、本人の思いに寄り添い喜びや、楽しみを共有している。人生の先輩であることを念頭に、できないことだけお手伝いさせて頂くという気持ちで関係作りをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連絡を密に行い情報を共有している。また、行事等にも参加していただき楽しい時間を一緒に過ごしていただいている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お茶飲みに来られるお友達もおり、気軽に立ち寄っていただけるよう支援を行っている。また、地元の行事を見学に行ったとき声をかけてくださる方も多く、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう席を考えたり、気の合う仲間作りができるよう働きかけ、利用者同士楽しみを共有できる関わりや支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もいつでも相談に応じていることを話している。入院や他施設へ入所後もみえることあり支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールのセンター方式を使いケース会議でより多くの意見を出し合い把握に努めている。日々の会話の中や行動、表情などから思いに寄り添うよう努めている。	利用者がその人らしく暮らし続けていく為に何を望んでいるか把握に努め、言葉掛けを工夫しゆっくりと傾聴して身体に触れたり、手を握ったり等のスキンシップを大切にしながら静かな介護を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、面会に来られた知人、親戚の方などから情報をお聞きしたことをフェスシートにまとめ職員で共有している。また、居宅のケアマネージャーとも連携しサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や生活の様子を毎日の申し送りで情報共有し、ケース会議等で意見を出し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の気づきなどケース会議等で意見を出し合い介護計画に反映させている。また、家族へも相談し現状に即した介護計画にしている。	利用者本人、家族等と話し合い、意見・要望の中から課題を見つけ、希望に添えるような個別の介護計画を作成している。主治医の意見等も参考にしながら変化に応じて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間の様子を個人の記録に記入し職員間で情報を共有している。また介護計画にも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地区の公民館での敬老会への参加受け入れなど協力をいただき、日々の生活に彩りを添えていただいている。また消防署員の協力を得、指導を受けながら避難訓練などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医の受診を支援行っている。また、協力医により月1回の往診の他に体調がおもわしくない時などすぐ往診の依頼をすることができる。電話による相談にもものっている。	往診日には、先生が来訪されるまでに、しっかり整容して待つ利用者もいる。往診日を問わず、体調不良時や電話での相談にも即受け入れてもらえる良い関係作りが出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員は在籍していないが、常に主治医、協力医に相談し、適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したさい、面会に出かけ安心できるよう励ましたり、早期退院にむけては、家族、医療連携室と相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との連携を蜜にして、本人、家族と話し合い適切な方針をチームで共有し支援に取り組んでいる。	最後迄関わる事を家族等と話し合いながら、医療面が出てきた時点で、転院の形を納得してもらっている。日頃より医療機関との連携があり、命に向き合うことへの理解と共有が見える事業所である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習会に毎回参加し、研修後ミーティングで実演、発表し実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもとに避難訓練を毎年行い、全職員が身に付けるようにしている。また、運営推進会議で近隣の方々の協力をお願いしている。	訓練時の利用者参加の反応は、長い時間を要すると不安症状が出たり、自覚がもてない方もいる。今年は地域の方々からの協力で荘内見学(非常経路確認等を含めて)をしてもらい、一歩踏み込んだ協力体制を築き上げている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が今まで大切にしてきた誇りを損ねないよう人生の先輩として尊敬の念をもって対応している。また、守秘義務を守り、言葉や声かけに十分配慮している。	言葉や声がけに寄り添いながらの配慮があり、利用者が自由に表出できる環境作りに努めている。トイレ誘導等も利用者一人ひとりの対応に細やかさが要求され、職員間での共有が活かされている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を自由に表出できる環境づくりやことば掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、午睡、食事時間など個人のペースに合わせた支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて散髪の予約や洋服を選んでいただいている。また、本人の希望に沿えるよう家族と協力し行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけている。食事をしながら季節を感じたり、懐かしく思い出される行事などの会話もはずみ楽しく味わっている。また、食材の皮むきやきり方、味付け、食卓の台ふき、食器洗いなど個々の力に合わせて職員と共に行なっている。	年間行事食も豊富で、季節柄100歳の利用者も加わり「おみ漬け作り」を各自の分担で完成し、またフロア前には約800個の手作り干し柿暖簾がある。旬の食材を取り入れ、昔の事を思い出しながら個々の力を活かし、食への楽しみに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節も配慮しながら、一人ひとりの体調や嗜好も含め習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝前と個々にあった口腔ケアを行い、健康を保つよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	在宅でオムツを使用されていた方も声がけ誘導することによりトイレで排泄できるようになった。一人ひとりの排泄パターンをチェックし、声がけなどに配慮しながら自立支援に向けた支援を行っている。	個人に合わせた声がけ誘導で、トイレでの排泄が可能となり、利用者の自信に繋がっている。日中は何も必要なく夜間のみリハビリパンツ使用者もおり、職員間では場面作りに配慮し、見返りを期待しない関わりを共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、ゼリーや寒天、食物繊維の多い食材などを摂取することにより下剤に頼らない便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を取り入れ、以前の習慣を尊重した入浴支援を行っている。	利用者の中には、入浴は好きだがその後一時期拒否が続き、見守りのうちに温泉浴を楽しむようになったケース等、あくまでも利用者の意思に添った入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に応じ、休息や安眠しやすい環境や過ごしができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解している。症状の変化を見極め主治医と連絡をとり中止や変更の指示を受け各自に合った支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し日々の生活が生き生きとしたものとなるよう支援している。個々の趣味活動で出来上がった作品を展示したり、季節の味覚を楽しんだり、ドライブなどで気分転換など行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を受け入れ外出支援を行っている。また、家族にも協力していただき希望の場所に出かけていただいている。買い物、彼岸の墓参り、親戚を訪問など本人の希望にそって支援している。	以前通っていた化粧品屋さんへ職員と出掛けることがある。家族等と外食を兼ねて気分転換を図り、帰宅後忘れてしまっても、その瞬間が楽しい外出に結びついている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて所持していただき使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な家族との電話の交流のある方、また、友人と手紙による交流を楽しみにされている方もおり一緒にポストまで散歩を兼ね出かけるなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったり快適に過ごしていただけるよう環境や、室温、遮光などに配慮し、また季節感を感じられるような工夫をしている。	入所時に一番先に取り組むことは、利用者にとっての居場所作りである。環境を整えること、季節感を感じてもらうことも一つであり、今は利用者の作品である「手作り大根干し」が吊るしてあって、壁にはクリスマスの飾りつけがあり、暖かさともぐもりが感じられる空間作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置の工夫で自由にくつろげる空間や、気のあった利用者同士で過ごせる場所や独りになれる場所もつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていた小物、衣類、寝具、家具を持ってきていただき、馴染みの環境づくりを心がけている。	利用者・家族等の意向を確認し、できるだけ自宅とのギャップを少なくしている。タンズやポータブルトイレの位置を同じ場所にし、トイレ表示は利用者目線にあわせ、わかりやすく、居心地良く生活してもらうことを提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう配慮し、段差をなくし、手すりを設置している。また、トイレの表示も利用者の目の高さに合わせて表示し迷わずトイレへ行ける工夫をしている。		